



【令和2年度第1回即応態勢点検】

令和2年4月21日

4月21日（火）に統裁官（自衛隊札幌病院長 大鹿陸将）は、防衛警備上の事態、災害派遣及び航空機事故における事案等発生時の初動対応の行動を演練する目的として、「令和2年度第1回即応態勢点検」を実施した。

部隊当直司令は、「0450頃、道東地区において震度6強の地震発生」の状況付与を受け、速やかに電話とメールによる非常呼集を開始、当初残留の営内隊員が、部隊当直司令の指揮の下、携行資材の集積を行った。その後、登庁した救護班要員が携行資材を点検し、出発準備を完了させ、統裁官（病院長）への報告を終え状況を終了した。

本訓練において、統裁官は「新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも自然災害が起きる可能性がある。今、起きた時にどう行動するかシミュレーションしておくことが大切である。」と訓示をした。

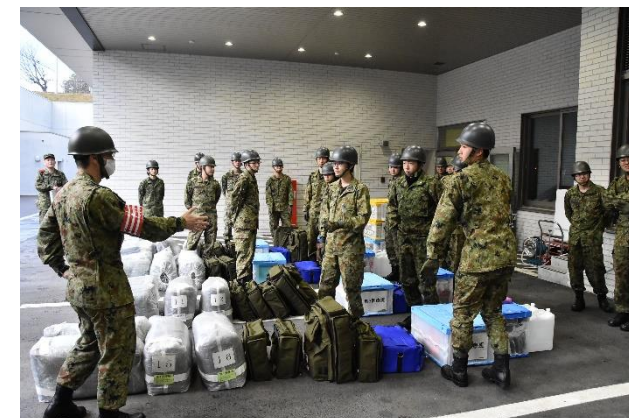
引き続き、病院は物心両面の準備を万全にして即応態勢を維持する。



状況開始（電話呼集）



災害派遣資材倉庫から
携行資材の搬出・集積



残留営内隊員を指揮する部隊当直司令



統裁官への派遣準備完了報告



救護班要員による携行資材の員数点検



統裁官による訓示